

しずおか平和の風

No.11
2016年3月22日
発行
静岡市
平和委員会
静岡市葵区鷹匠
1-5-8
TEL 253-1854
FAX 252-0785
メール
Peace-City
@mail.707.to

3月21日 「戦争法廃止！

オールしずおかアクション」

が主催した学習

交流会がアザレ

アで開かれまし

た。静岡市内や

全県から100

名近い活動家が

集まり、静岡市

平和委員会の仲

間も参加しまし

た。

前半は学習講

演会。講師の清

水雅彦(日本大教

授(憲法学)は、

東京で「戦争さ

せない1000

人委員会」の事

務局長代行の任

に当たり「総が

かり行動」の発

展にも尽力され

ている方です。

講演内容は、

①集団的自衛権

の問題点、戦争法に関する

理論的諸問題の解説。

2000万署名を全力で!!

戦争法廃止に向け、2000万署名の運動がいま、大きく盛り上がっています。

②戦争法反対運動の到達

点と課題。(運動の土台を

作った「戦争させ

ない・9条壊すな!

総がかり実行委員

会)について、連

合所属労組と全労

連所属労組の統一

行動の実現など、

組織の概要、成果・

課題。)

③戦争法発動阻

止・廃止の展望。

(「潮目」を変え

た憲法研究者の発

言・取組み、そし

て、マスコミの変

化など特徴を交え

ながら)

印象に残った話

は、運動を進展さ

せるためには、

「一緒に行動して

ほしい友人を一人

誘って来る」、こ

のことが大切。更

に、学生や若い人たちに

接するには、人生の先輩

つむじ風

歴史を背負っている沖縄の貧困

我が国の貧困世帯が、この20年で2.5倍になったということが山形大学の戸室准教授の研究結果で明らかになった。(3月15日赤旗)貧困世帯の割合は、都道府県別に見ると沖縄がダントツに高い。中でも子育て世帯の貧困率は、37.5%(全国平均は13.8%)と、全国平均の3倍近い。2位の大阪(21.8%)との差も大きすぎる。ちなみに静岡県のそれは、10.8%。

なぜ、沖縄の貧困率が飛び抜けて高いのか?山内優子氏(沖縄大学非常勤講師)は、大きく3つの理由があり、それが、第二次世界大戦の沖縄戦以来の負のスパイラルをもたらしているという。沖縄戦は、県民の4分の1が命を落としたという凄まじさだが、中でも多くの子どもも含めて20代以下の割合が60%にもなった。もっとも活動的な部分を失ったことが、戦後復興の大きな足かせになったということは想像がつく。それだけではない。さらに第2、第3の理由が加わった。スペースの関係で触れられないが、戦後の米軍の占領政策や日本へ復帰(1972年)後の政府の支援策のありようだ。沖縄の貧困。それは、歴史的に形成されてきたものである。これは、国民全体の問題として、どこかでしっかり考えなければならぬ。(合戸 政治)

として「こんなことも知らないのか!」と教えたがる態度は絶対ダメ。集会の後懇親会などでおおごること大切。「金を出しても口出すな」など、若者を育てる秘訣も教えてくれました。後半の交流会では、国公

市民の会などから、活動の報告がされました。富士・富士宮では一人ですごい筆、700筆など力持ちの活動も報告され、会場が盛り上がりました。2000万署名達成への意気込みが会場全体に広がった集会でした。私たちが平和委員会の会員も、一人10筆以上の署名集



↑「ピースアクション2000万署名学習交流会」前半の講演会



3月9日
に大津地裁
で高浜原発
3・4号機
の運転差し
止めの仮処

分決定が出され、稼働中の原発が裁判所の判断で初めて止った▽福島で原発事故が起こり、その原因究明がほとんどなされず、政府は原発の再稼働を急いできた。事故から何も学ぼうとしな

延べ60人余の報告者のテーマから

①戦場・戦地の体験

満州事変、日中戦争の体験。／人間魚雷「蛟竜」の訓練／ソ連国境での軍隊生活／南京～紗市1200kmの死の行軍／多くの若者を特攻隊として送る／戦闘での負傷／シベリア抑留の思い出

②空襲の体験

静岡空襲に遭う／夫を戦場に送り、空襲を体験／浜松空襲／下関空襲の体験

③読み聞かせ、紙芝居など

絵本『ちいちゃんのかげおくり』『原爆の火』『さだ子の願い』『特攻の母』絵本『一つの花』と子どもの詩 お話し『かわいそうな象』

④「少国民」の体験

満州の開拓団(10歳)／父を亡くした10歳のあの日／同級生を満蒙開拓義勇軍に送って／徴用船／学童疎開／母子で北朝鮮からの脱出(6歳)／学徒動員の体験／学校での体験／美和地域の戦争

美和の人々と戦争

美和地域戦争体験を聞く会・語る会

主催：美和地域憲法を学ぶ会

語る人も
聞く人も
変わる・変える
10年余の活動

聞いた人(延べ1300余人)の感想と語った人のお話し抜粋

◇せんそうのごことをしつて、いのちはたいせつだと思った。(8歳戦争は人が死んでしまうこと、こわいことが分かった。日本が悪いことが分かった。(27回・11歳)

◇どんな小さな経験でも大事に語り継ぎたいものです。地域にはまだまだ体験をしている人がいるのではないか。今日の話を聞いて思いました。(17回・70歳)

◇夏休みという事で、子どもと一緒に参加させて頂き、満足しております。またぜひ参加したいと思えます。(18回・43歳)

◇熱心な会で驚きました。18回も続いており、主催者の方々の熱い思いが会の存続につながっているんだなと思いました。小学生や中学生にも少し聞かせたいな、と思いました。

◇99歳のおばあさんの話が心に

残りました。野田さんの「あの戦争は何だったんだろう」の言葉に・・・

◇私の主人はニューブリテン島のラバウルに派遣されまして、同じ部隊に、漫画界で活躍している水木しげるさんと一緒だったそうです。戦後、戦友会が何回も持たれましたが、水木さんは一度も出席しなかったそうです。(21回・田代さんのお話し)

◇酷な意見ですが、人間が存在する限り、戦争は無くならないと思います。しかし、つらい体験を語り継ぐことはできます。(23回・24歳)

◇「兵隊さんのおかげです」子供の頃うたった覚えがあり、声を出して歌ってくださったことがとても良かったです。(25回)

◇舞鶴の岸壁へ弁当を持って行きました。『岸壁の母』の唄を聞くと泣けます。なかなか来ないので、自分の写真を張りつけて帰り、それを見つけて、私の写真を抱いて帰ってきました。(25回)

◇報告者・木田さん(94歳)

水戸喜平さんの付記

「戦争体験を語る会・聞く会」1回目は2006年8月15日、主催は美和地域憲法を学ぶ会。ねらいは美和地域の戦争体験者世代から話を聞き、語り継ぎ、平和の大切さを地域、世代で共有する。

ご案内は各町内会で回覧し、広報している。8月は子どもにも聞いてほしいので、保育園、小・中学校にも配っている。

報告者は保守・革新を問わず、お願いし、会費はなく、資料代はカンパでまかない、報告者には、ごごん代、車代程度。

ご紹介にあたって

10年余にわたる活動の膨大な資料をお借りしたのに、そのごく一部しかご紹介できないのが残念です。地域から、世界、歴史が見えてくる。その語りの深さ、広がりがあり、参加者の層の厚みが見えてきます。語る人も聞く人も、変わり合っていくのが見えてきます。

山田洋次監督が「言葉にするこつて大事なんです。あじいちゃん、おばあちゃんは、孫たちいろいろな言葉で語り継いで」と言っています。地域に市民権を得るまでのこの活動に学ぶところが多々あるのではないのでしょうか。(鈴木正)

会員の声

◆最近「国民の意識の発展」という言葉をたびたび見聞きし、実感することが増えてきたように思う。原発の危険性、安倍政権の暴走と、生活上の実害、憲法解釈の変更、安保法制・戦争法の強行、「立憲主義」という言葉も多くの国民が意識することになった一つ一つの出来事、それに能動的に働きかける多くの人たち、実際の政治的体験を通して認識を発展させている、これが、政治を変え、社会を変える大きなエネルギーとして蓄積されている。この国の未来に明るい展望が見えてくる—そんな気がしています。自分も、有権者の一人として、政治にかかわる一人として、この流れを促進させるために、微力を尽くさねばと思っています。

青野賢二

が信じ込まされていたある日、「この戦争、日本は勝てるのかね・・・」と呟いた私の母に「叔母さんー何を言うかー」と大変な剣幕で16才の従兄が言い放った事、私は忘れることができません。当時は徹底した思想統制の下で盲目的な軍国少年が作られたのです。この暗黒時代に15才の少年の日記には、「宣伝部の、自由は死せず」「戦争は恋も許さぬ」「終戦を躍り上つて言んだ」など、素直な勇気ある心情がにじみ出て、今こそこの素晴らしさを噛みしめる必要があるのではと痛感しました。

◆前号No.10で15才の少年の戦時下での学徒動員日記が紹介されました。当時私は12才、静岡空襲で家は焼失し伯母の家に居候していました。空襲が激しくなる中、「今に神風が吹いて日本は必ず戦争に勝つ」と誰も

安倍政権はメディアにまで口をはさみ、躍りになって「戦争する国づくり」へ突き進んでいます。首相の「しゃべりや行動」に惑わされることなく、その本質をしっかり見抜き、平和憲法を守らねばなりません。今、全国のみなさんが「戦争法」廃止の運動を強く大きく広げています。この国民の声を土台に一日も早く安倍政権を倒すつてはありませんか。大村越子



大村越子

戦前も敗戦後も経験し、戦争の苦しみ、悲しみを経験してきた高齢者は、戦争は絶対反対！戦争法を許しません。

全日本年金者組合 甲賀利男